

中央アジアってこんなとーりー!

まだまだ知らないことが多い中央アジアの国々。どんな人々が、どんな生活をしているのだろうか？その国に住む日本人に教えてもらおう！

キルギス
といえば

必需品の カルパック!

キルギスの男性たちに欠かせないアイテムの一つが、「カルパック」と呼ばれる帽子です。フェルトでできているので、冬は暖かく、とんがった形で頭頂部に空洞ができるため通気性がよく、夏は快適。乾燥したキルギスでは冬は寒く、夏は強烈な日差しが降り注ぐので、この土地の気候に適応した形になったのかもしれない。

民族衣装として愛され、なんとカルパックの形をモチーフにしたバス停もあるぐらいです。お祝い事など伝統的なイベントのときにはもちろん、おじいさんも若者も普段からよくかぶっています。スーツ姿にカルパックをかぶったビジネスマンは、いかにもキルギスらしいですね。



JICA 専門家
原口明久さん

タジキスタン
といえば

青い温泉!

タジキスタンには、日本人が大好きなものがあります。それは温泉。と言っても、この国の人々に普段、湯船に入る文化があるわけではありません。古くから湯治場として使われ、主に皮膚の病気を抱えた人やお年寄りが行くところ。今でも若者はあまり行かないようです。

東部のゴルノバダフジャン自治州のガラムチャシュマ温泉は、人気スポットの一つ。この数年開発が進み、海外からの観光客も多く訪れるようになりました。源泉が鍾乳洞のような形になっていて、お湯はなんとも鮮やかな青色をしています。最近ではこうした温泉の周囲にホテルや保養所が建設され、中には1泊300ドルという高級ホテルもあります。温泉で観光開発とは、なんだか日本と似ていますね。



JICA 専門家
梅野明恵さん

トルクメニスタン
といえば

カラフルな首都!

トルクメニスタンといえばガス、ガスといえばトルクメニスタン。それほど、この国は天然ガスが豊富です。それを象徴するのは、首都アシガバット。街中に立ち並ぶ建物には大理石の外壁材が使われることが多く、白で統一されています。どこもかしこも形も高さも似た建物ばかりで、初めて来た人は方向感覚を失うこともよくあります。

でも、この真っ白な街並みががらりと変わるのが日没後。赤、青、黄…まるで信号のように、色を変化させる極彩色の派手なネオンで彩られるのです。省エネもなんのその、明け方まで惜しげもなく煌々と輝く街の明かりを見ると、この国のエネルギー資源の力を感じざるを得ません。



在トルクメニスタン日本大使館 専門調査員

長尾広視さん

カザフスタン
といえば

豪快な肉料理!

「この世で2番目に肉をたくさん食べるのはカザフスタン人だよ。1番は誰かって?そりゃオオカミだよ」。この国の伝統料理「ベスバルマック」が目の前に置かれると、よくこんな笑話で盛り上がります。「5本の指」という意味のこの料理は、羊や牛、馬の骨付き肉を塩ゆでにしたシンプルなもの。食卓にドンと出たたら、5本の指で豪快にわしづかみにして食べることから、この名前がついています。

どの家庭でも客をもてなすときのメインディッシュはこれ。家畜の年齢、オスかメスか、太っているかやせているか、ゆで方はどうか、どの部位にするかなど、みんなかなりのこだわりがあります。遊牧民をルーツに持つカザフスタン人は、一期一会の出会いを大切にします。そのおもてなしの心が表れた一品です。



カザフスタン日本人材開発センターアスタナ分室
日本語常勤講師

増島繁延さん



特集 中央アジア
開かれた地域へ

ウズベキスタン
といえば

まじめで温かい国民性!

ウズベキスタン人の性格を一言で表すなら、まじめ。何をやるにも、納得するまでとことん自分で考え、一度決めたら必ずやり遂げます。一緒に働いているJICA事務所の現地スタッフも、打ち合わせで納得できないことがあれば、「なぜ?」「これはどういう意味?」と、質問攻めです。

みんな親切で温厚で、いつも心が温かくなる言葉をかけてくれます。私が忙しくて余裕がないときに「松ぼっくりが落ちていたからあげる」とさりげなく元気づけてくれたり、誕生日にそっと机にプレゼントを置いてくれたりと、常に仲間のことを思い、困っていると手を差し伸べてくれるのです。生活面でも、クリーニング屋さんに出しに行くときなど、どんな小さなことでもロシア語が苦手な私をサポートしてくれます。

面倒見が良く世話好きで、家族のように接してくれる。これこそ、典型的なウズベキスタン人。イスラム教徒が多い国ですが、日本人がなじみやすく、どこかほっとする国です。



JICAウズベキスタン事務所
企画調査員

三宅由雅子さん

